

話題

カザフスタン・ウズベキスタン国境にて

岡 奈津子

日本の7倍以上の広大な領土をもつ内陸国カザフスタンは、五つの国と1万2000キロを超える国境を接している。中国を除くと、他の4カ国はすべて旧ソ連の国々である。かつては、日本で言えば県境のような意味しかもたなかった共和国間の境界線は、ソ連解体によって名実ともに国境となった。とはいえ、領土を画定する交渉には数年を要した。ソ連時代は、境界線がそれほど厳密には決められていなかったのである。

私は2005年春、ウズベキスタンと国境を接するカザフスタン南部の村々を訪ねた。当時、国境画定作業が終了しつつあり、国境地域ではそれぞれの領土を示す両国の国旗を描いた標柱が立てられ、簡素ではあるが鉄条網の整備も進んでいた。村の住民は、1990年代末まではウズベキスタン側に住む親戚を訪ねたり、病院に通ったりしていたが、いまでは目的を文書できちんと証明しないと往来もままならないとこぼしていた。両国間では査証は導入されていないが、パスポートを見せるだけでは国境は越えられないという。

国境管理は一見、物々しく行われている。私の訪問時には、ウズベキスタンから「テロリスト」が不法入国を図ったとかで、国境警備所には張りつめた雰囲気漂っていた。しかし、そのすぐ近くでは「ウズベキスタン側へ行くかい？ 300テンゲ(約270円)でいいよ」と越境をもちかける人々がたむ

ろしている。国境地域の住民の家の敷地内を通り抜けさせ、ウズベキスタン側の協力者に引き渡すのだという。さらに数百メートル離れたところでは有刺鉄線が途絶え、ぬかるんだ細い道を車が行き来している。国境警備員は賄賂と引き替えに、このような不法越境をしばしば黙認しているらしい。

厳重な国境管理と、そのすぐそばで行われている「自由」な往来。ちょっと不思議な組み合わせだ。

(おか なつこ / 地域研究センター)



国境付近で遊ぶ子供たち。鉄条網の向こう側はウズベキスタン領。